

ミュージアム・コンサート

高野麗音 (ハープ)

曲目解説

ドビュッシー: アラベスク 第1番

ドビュッシー初期のピアノ曲《2つのアラベスク》は、1888年に作曲され、91年に出版。ドビュッシーのピアノ作品のなかでもポピュラーな1曲である。その第1番は、流れるようなアルペジオに旋律線が織り込まれ、アラベスク模様を描く。

ダマーズ: シシリエンヌ・ヴァリエ

20世紀フランスの作曲家ジャン＝ミシェル・ダマーズはピアニストとしても活動したが、母が著名なハープ奏者だったため、ハープに関連する作品も多い。本曲は1966年に作曲されたハープのための独奏曲。旋律はロマンティックだが、難曲として知られる。

グランジャンニー: ラプソディ

パリ出身のハープ奏者マルセル・グランジャンニーは20世紀前半のアメリカで活躍し、ハープ作品を数多く作曲した。本曲はハープ奏者のレパートリーのなかでも超絶技巧が散りばめられた難曲であり、しばしばコンクールの課題曲にもなっている。1922年頃に出版され、師であるフランスの名ハープ奏者アンリエット・ルニエに捧げられた。

コンスタン: アルパリセ

マリユス・コンスタンは、ルーマニア出身のフランスの現代音楽作曲家。映画音楽も手がけており、特に「トワイライト・ゾーン」のテーマ曲がよく知られている。本曲は1980年に作曲された作品で、様々な奏法を用いてハープの可能性を追求している。ハープの独奏曲だが、ハープと弦楽四重奏(または弦楽オーケストラ)でも演奏可能。

ファリャ(グランジャンニー編): スペイン舞曲 第1番

スペインの作曲家マヌエル・デ・ファリャの出世作となった歌劇《はかない人生》は、古都グラナダを舞台にした悲恋の物語。同作には2つの「スペイン舞曲」があるが、洗練された筆致が美しい第1番は、特にクライスラーのヴァイオリン編曲によって広く親しまれている。今回はグランジャンニーによるハープ編曲でお届けする。

サルツェード:グラナダによるコンサート・ファンタジー

グランジャーニーと同じく 20 世紀前半にフランスからアメリカにわたって活躍したハープ奏者カルロス・サルツェードは、ヴィルトゥオーソの呼び声高く、作曲家としてもハープ作品を数多く手がけた。本曲はメキシコの作曲家アウグスティン・ララの大ヒット曲「グラナダ」の旋律にもとづく演奏会用ピース。

サン＝サーンス:幻想曲

1893 年、サン＝サーンスが 58 歳の頃に作曲されたハープ独奏曲。幻想曲という自由な形式のなか、いくつもの美しい旋律が飛来して、夢のように移ろっていく。ロマン派の音楽の醍醐味が味わえる作品である。

サルツェード:バラード

1914 年に《ハープ独奏のための 3 つの断片》の第 1 曲として出版。ロマンティックな物語性を感じさせるスケールの大きな曲である。

フォーレ:即興曲

1904 年、パリ音楽院ハープ科教授を務めていたアッセルマンのクラスのために課題曲として作曲され、ハープ奏者にとって貴重なレパートリーとなっている。フォーレは「即興曲」というタイトルのピアノ曲を 5 曲(第 1 番～第 5 番)残しているが、ハープのために書かれた本曲は、アルフレッド・コルトーが 1913 年にピアノ編曲して「即興曲 第 6 番」とされた。